

「げやき俳句の会」会報(第二百五回)

令和二年十月

第二百二回句会記録

★日時 十月七日

★場所 紙上句会

★参加者十九名 (総数五十七句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数)

- ②真帆白帆秋風はらむ湖の上
- ②とよもして右岸を染める曼珠沙華
- ②不老不死の葉撞いてる月兎

真樹先生選句 (◎は特選)

- ◎⑥ひとり来て現世忘る花野かな 東洋
- ◎③鉦叩迎えはまだまだ先でいい 香魚
- ◎②剥き終る栗コロンボ事件も解決へ 藍愛
- ⑤ちちろ鳴く舞台は廃校舎の庭に 冬水
- ④柿添えて姉の絵手紙元氣かや 盈光
- ③曼珠沙華浄瑠璃めきて古き寺 東洋
- ②展墓かな先祖としばし語らいて 要
- ②夜の卓の主役となりぬ郷の梨 要
- ②耳だけが眠りにつけず夜長かな 一華
- ②収穫は片手に足りぬ胡麻打ちて 一華
- ②夕日浴び鱈の勇躍潮満ちて 冬水
- ②全身で赤子の笑う秋うらら 藍愛
- ①四方の湯の秋コロナ禍をふと忘れ 誠
- ①菊鉢の数多仕上がり満足す 真弓
- ①種を蒔く来春を待つ菜の花の 蕉哉
- ①秋簾忘れられしか色褪せて 樹音

★会員互選句

- ⑥ほんのりとお焦げの旨し栗ごはん 東洋
- ③立ち止まる揺らぐ芒と丈比べ 蕉哉
- ③蟪蛄の竿渡りゆく一日過ぎ 一華

②法要のライブ配信秋彼岸

隼人

②風祭苦楽の多き農良日記

隼人

②草むしり出遭うた親子蛸蛸ども

青嵐

②コスモスは恋の花よと抱えたり

香魚

②跳ねる子に合わせ揺れるや秋桜

樹音

②満月や三拾八万キロ近し

清明

①墓参り帰路はやさしき吹く風と

紀泉

①秋の日に妻とひとつ離れ映画観る

誠

①木犀の甘い匂いが風に乗り

誠

①渡月橋月淡々と水鏡

而今

①虫の声戸しめためらう細き指

而今

①老友健在世情肴に古酒新酒

秋雲

①コロナ禍をそれぞれに耐え星月夜

秋雲

①満月を肴に一人酒を酌む

青嵐

①星月夜送る大の字相照らし

夢城

①秋麗髪切り音のほがらかに

冬水

①鬼やんまの番い飛び行く空青い

要

①人力へ誘うだみ声秋日和

樹音

【次回開催】

十一月四日(水)

自由句三句